

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 沖山 栄一 会員数 約1,000人)

TEL 03-3333-7771

1 前 文

学習指導要領が新しくなって最初の共通テストとなった。これまで、学習指導要領が改訂されて最初の年の大学入試センターが出題する試験は易化する傾向があるとともに、学習指導要領の基本的な考え方を十分踏まえた出題となる傾向があった。今回もその傾向は顕著で、『公共、倫理』の出題内容は平易であり、学習指導要領の基本的な考え方を十分意識して出題されている。後期中等教育の学習内容を理解した上で、高等教育において学ぶ基礎基本が身についているかどうかを確認し、基礎的基本的な確かな知識に基づき、広い視野から思考力・判断力が備わっているかを問う出題となっている。出題分野の極端な偏りはない。以下、具体的に各問いについて意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

試験問題の難易度は平易であり、高等学校「公共」および「倫理」の授業を履修していれば容易に正答が得られると考えられる。設問数は、「公共」から2大問、8小問、「倫理」から4大問、25小問であり、解答時間に余裕はないものの決して答えられないほど時間がないわけではない。基礎的基本的な問いを中心に思考力・判断力を働かせ、短時間に正確に読み解いて答える学力を重視しているという意図が伝わる。配点は基本的に各問3点配点で、思考力や判断力が問われる問いの配点を4点としているのも妥当である。形式は、基本的に、選択式であっても思考力や判断力を問えるように工夫してある。しかし、全ての可能性のある組合せを網羅的に示す選択肢の問いもあり、4択に絞って提示することに出題者側の出題の狙いを受験者に伝えるという意味があることを考えると、網羅的に選択肢を用意することが教育的なのかどうか、疑問は残る。

第1問 「公共」からの出題。男女共同参画社会を大きな主題として、平等権に関する基礎的基本的な知識、図表の読み取りと分析の力が問われた。基礎的基本的な問いであり、平易である。

問1 憲法14条の理解を問うとともに、日本における男女雇用機会均等法から男女共同参画社会基本法へと向かう流れとその背景となった国際社会の男女平等の動きについて問う。平易。

問2 性別役割意識に関する資料二つの読解力と分析力を問う。表の数字や内容を丁寧に追いかければ正答は平易。

問3 女性議員比率の国際比較から読み取れる内容と主な国の制度についての基礎的基本的な知識を問う。平易。

問4 形式的平等と実質的平等およびアイヌに関する人権について基礎的基本的な知識を問う。会話文の中にウポポイの例が示され、フィールドワークへの示唆が見られる。

第2問 「公共」からの出題。公共空間の持続的形成についての問題。平易。

問1 コミュニケーションや多様性、複数性についての基礎的基本的な知識の確認と確かな知識を活用した思考力と判断力を問う。

問2 内閣府調査に基づき、「時間のゆとりの有無」「自由な時間の過ごし方」から読み取れる内容を三つの資料文と突き合わせながら読み取れる内容として適切なものを選ぶ問い。

問3 哲学カフェに参加したという状況を設定して、実は帰納法か演繹法かという方法論について

正しく理解できているかを問う。平易ながら大切な問い。

問4 公共空間の持続的形成について、対面と非対面という視点から具体例を考え出す思考力を問う。

第3問 源流思想と西洋哲学からの出題。源流思想に関しては、ギリシア思想から美、宗教と芸術、キリスト教から四元徳とパウロの思想、中国思想から礼楽、仏教思想から大乘仏教について問われた。西洋哲学に関しては、ルネサンス、ベンヤミン、美の鑑賞、ニーチェとマルクスおよびウェーバーについて問われた。

問1 ヘシオドス『神統記』、デモクリトスの原子論、ソクラテスの普遍的真理およびプラトンのエロースが問われた。正答のアイデア論とエロースについては基礎的基本的な知識。

問2 宗教と芸術について、ユダヤ教の偶像崇拜禁止、ブッダの輪廻からの解脱、キリスト教の贖罪について基礎的基本的な知識が問われた。イスラームのミフラーブはやや細かい知識ではないか。

問3 アウグスティヌスについて、基礎的基本的な知識を踏まえ、授業資料の読解に基づき最も適当な記述を選ぶ思考力・判断力の問い。三元徳と四元徳、新プラトン主義など難しくはない。

問4 中国思想から孔子、孟子、荘子および墨子の思想について基礎的基本的な知識が問われた。

問5 大乘仏教の特徴を問う。無自性、空、諸法無我、唯識論は基礎的基本的な知識だが、『般若経』と一切衆生悉有仏性、『維摩経』の菩薩の判断は難しいかもしれない。

問6 芸術論と見せかけて、ルネサンスの精神の基礎的基本的な知識を問う。コペルニクスとガリレイ、四原因と因果法則、プロテスタンティズムとヒューマニズムの判断は易しい。

問7 ベンヤミンの複製芸術論を資料読解に基づき問う思考力・判断力の問い。

問8 ミシェル・アンリの文章を資料として提示し、資料読解に基づく思考力・判断力を問う。

問9 美をいかに受け取るか、資料の文脈をたどりながら思索を深める問いに加えて、ニーチェ、マルクスおよびウェーバーについての基礎的基本的な知識を問う。

第4問 日本思想からの出題。基礎的基本的な知識に基づき、思考力・判断力を働かせて解くことが求められた。

問1 神道と仏教や儒教などとの関係を通して、本地垂迹説、山崎闇斎の垂加神道、平田篤胤の復古神道など、日本思想の特徴を問う基礎的基本的な知識の問い。消去法でも正答は得られる。

問2 親鸞の思想について資料読解に基づき正答を選ぶ思考力・判断力の問い。

問3 江戸時代の思想について、伊藤仁斎、本居宣長、富永仲基および佐久間象山の思想を問う基礎的基本的な知識の問い。

問4 西村茂樹の道徳についての考え方に関し、『日本道徳論』の資料読解に基づき思考力・判断力を働かせて答えを選ぶ。

問5 近現代思想から丸山真男の雑居、加藤周一の雑種、夏目漱石の皮相上滑りの開化および武士道の台木に基督教を接いだものは内村鑑三などについて文章の読解に基づき、思考力・判断力を働かせて解く。

第5問 心理学に関する問い。

問1 資料読解に基づき長期記憶と短期記憶の知識が求められた。

問2 バイアスについて会話文の文脈から適当な説明を選ぶ問い。知識なしで解け、国語力が求められた。

問3 クリティカル・シンキングをソクラテスやミル、デカルト、デューイの思想に対応させて考えて解く、思考力・判断力の問い。それぞれの思想家の思想に通じていれば平易。誤文の判定にはヒューリスティックの理解が求められた。

問4 二重盲検法についての文章を読み、下線部がどのような認知バイアスに対処する目的化を問う思考力・判断力の問い。知識は求められておらず、国語力の問いでもある。

問5 認知バイアスによる対応の誤りや遅れに対応するためにどのような環境整備をするかについて思考力・判断力を問う。平易ながら工夫された問い。

第6問 戦争と平和を主題に現代倫理を問う。

問1 暴力によらない問題解決を目指した思想家として、トルストイ、ロマン・ロラン、ガンディー、キング牧師の思想を問う。平易。

問2 戦争と平和についての思想を会話文から読み取り、フーコーによる批判を手掛かりに考えさせる問い。

問3 安全保障に関する資料を読み、人間の安全保障、コスモポリタニズムおよびストア派の考え方を選ぶ問い。ただし、コスモポリタニズムと断言できる態度なのかは迷うところではないか。

問4 フランクル『夜と霧』について会話文の読解に基づきアナログカルに考えて正答を選ぶ。知識ではなく考える力が問われた。

問5 シャープの思想を資料読解から把握する問い。シャープその人を知らなくても不利にならないようあくまで資料読解問題としてつくられている。ガンディーの思想を受け継いでいるという説明も手掛かりとなる。④を積極的に間違いと断言できるか迷うところではないか。

3 総評・まとめ

受験生が基礎的な知識を確認し、受験者が自ら獲得した知識を活用し、思考力や判断力を働かせ、今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である。問題はいずれも学習指導要領に示されている「公共」および「倫理」で学習する範囲内であり、極端な難問や奇問はない。問題のリードが高校生が調べたり学んだりしている状況から示されることが多い。これは高大接続を意識してのことであろう。しかし、高校生が学んだ内容を理解していれば読める1ページ程度の文章を読ませて考えさせるというセンター試験で長く出題されていた形式も復活しても良いのではないか。ものを考えることの大切さを受験者に示す意味で思考力・判断力を問う重厚な問題がひとつあってもよいだろう。後期中等教育の学習が高等教育における研究へどう発展できるのかを高校生に示すことも教育的配慮であろう。

4 今後の共通テストへの要望

共通テストの高校現場への影響力は極めて大きい。出題者の意図を超えて出題者の意図とは異なったメッセージとして教育の現場に想定外のメッセージを伝えることになる場合さえある。それだけに、後期中等教育の健全な発展に資する質の高い問題を作成し続けてもらいたい。安易な問いは避け、基礎的な知識を理解しているか、理解した知識を用いて大学で学ぶにふさわしいだけの思考力や判断力があるのかを判断できる問題を作成し続けてもらいたい。さらに、大学側から高校生へのメッセージとしての役割があることを踏まえ、リード文については高等学校の学びを想定したものだけでなく、エッセイとしても読み込むと社会科学の基本的理解が広がるような優れたリード文による問題も期待する。